

第1日曜日  
主日第一礼拝 9:00~  
主日第二礼拝 10:30~  
その他の日曜日  
教会学校 9:00~  
主日第一礼拝 9:00~  
主日第二礼拝 10:30~

# 日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 1. 16

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会  
第2日曜日 礼拝後  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

## 「見よ、わたしの僕」

牧師 松谷 祐二

### イザヤ書 第四二章一〜七節

見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたし  
が選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は  
置かれ、彼は国々の裁きを導き出す。

彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。  
傷ついた葦を折ることなく、暗くなってゆく灯心  
を消すことなく、裁きを導き出して、確かなもの  
とする。

暗くなることも、傷つき果てることもない。この  
地に裁きを置くときまでは。鳥々は彼の教えを待  
ち望む。

主である神はこう言われる。神は天を創造して、  
これを広げ、地とそこに生ずるものを練り広げ  
その上に住む人々に息を与え、そこを歩く者に霊  
を与えられる。

主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び  
あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として  
あなたを形づくり、あなたを立てた。

見ることのできない目を開き、捕らわれ人をその  
枷から 闇に住む人をその牢獄から救い出すため  
に。  
(新共同訳聖書)

預言者イザヤを通して語られた、神の言葉です。  
神は「わたしの僕(しもべ)」と呼ぶ誰かについ  
て、熱を込めて話しておられます。神にとってこ  
の人は特別な、非常に特別な存在のようです。神  
はこの人を「支え」、「選び」、「喜び迎え」、「わた  
し(神)の霊」をその上に置かれるのです。後半  
の方を読みますと、神はこの人に「あなた」と直  
接語りかけておられ、「あなたへのわたしの思い  
入れは格別だ」と言いたげです。

「主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼  
び、あなたの手を取った。」深読みすれば、「呼ん  
だ」というのは、この世に存在するように呼び出

した、つまり生まれさせた。そして「手を取った」  
というのは、手を取って立たせた、成長して一人  
前になるまでよく世話をし、育てた、という意味  
でしょうか。すぐ後に出る「あなたを形づくり、  
あなたを立てた。」も、同じ意味に取れそうです。  
もし、もしもですが、神は、この聖書の言葉を  
読んでいるこの私に向かって、「あなた」と呼ん  
でおられるのだとしたらどうでしょう。もしそう  
なら、私は神から手放しで愛されていることにな  
ります。私は神が支え、選び、喜び迎えてくださ  
る、神にとってそれほど大切な存在だということ  
になります。うれしいような、照れくさいような  
話です。

しかし、これらの言葉の前後をよく読むと、神  
に愛されている特別な「あなた」という立場は、  
私にはあまりに荷が重すぎる気がしてきます。  
たしかに神は「わたしの僕」と呼ぶ人を支え、選  
び、喜び迎え、ご自分の霊さえも与えてくださ  
いますが、それはある使命を果たすためであり、そ  
れも、遠方もなく困難な使命に思われるからです。  
その使命とは、「国々の裁きを導き出す」こと  
——世界に公正、公義をもたらすことです。私な  
りの考えによる公正、公義ではありません。神の  
レベルでの公正、公義を、この世界にもたらすこ  
とです。それはおのずと、神のレベルでの秩序と  
平和をも、世界にもたらすことになるでしょう。

神がおっしゃるところの「わたしの僕」は、そ  
れほどのことを成し遂げるのに、「叫ばず、呼ば  
わらず、声を巷に響かせない」。私たちの見聞き  
する剛腕の政治家、権力者、独裁者のようではあ  
りません。「彼は傷ついた葦を折ることなく、暗  
くなつてゆく灯心を消すことなく……消え去りそ  
うな弱者をも支え続け、しかしそれでいて、た  
だ笑顔で寄り添い、話を聞いてくれるだけとい  
うのではなく、「裁きを導き出して、確かなものと  
する」——神の公正、公義を全世界にもたらし、  
確立します。「鳥々」——世界の最も遠い国々の  
人々——でさえも、心服して「彼の教えを待ち望  
む」ほどに、完璧に。

たしかに神は「恵みをもってあなたを呼び、あ  
なたの手を取った」、「あなたを形づくり、あなた

を立てた」と、うれしいことを言ってくくださる  
のですが、それは「民の契約、諸国の光として」  
です。神の民にとっての命とも言うべき「契約」  
——神との契約関係、神との絆——そのものを体  
現した存在。神の民のみならず、世界中の人々に  
とつても「光」となる存在。そうであるようにと、  
神が「あなた」を呼び、手を取って立たせたのです。  
私自身はもちろん、いったい誰が、こんな途方  
もない、神のレベルの使命をよく果たせるでし  
ょうか。いったい誰が、そのような「あなた」であ  
るでしょうか。しかし、神にとっての「わたしの  
僕」「あなた」は、それを成し遂げる、そのよう  
な器なのです。

マルコによる福音書 第一章九〜一一節  
そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、  
ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水  
の中から上がるとすぐ、天が裂けて、霊が鳩のよ  
うに御自分に降って来るのを、御覧になった。す  
ると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心  
に適う者」という声が、天から聞こえた。

ここに、その人がおられます。神は彼を支え、  
選び、喜び迎え、その使命を成し遂げるために、  
神の霊を彼の上に置かれます。彼こそ、神の子イ  
エス。神が「わたしの僕」「あなた」と熱を込め  
て呼び、「見よ」と私たちに示したもう方です。  
ただそうなる、主であるわたしは、恵みをも  
つてあなたを呼び、あなたの手を取った。」こ  
の聖書の言葉を読んで、「神は私を愛してくださ  
っているんだ」と喜ぶのは浅はかなのでし  
ょうか。いいえ、そんなことはありません、もし私が、神  
の子イエスを信じる者——クリスチャンになつた  
のなら、もしそうなら、神の子イエスと一つにさ  
れた存在として、神は私たちを、手放しで愛して  
くださいます。神が私たちを、支え、選び、喜び  
迎え、ご自分の霊さえも与えてくださいます。神  
の子イエスと一つになつて、神の使命を果たして  
いけるように。私たちは、神にとってそれほど大  
切な存在になります。うれしいような、照れくさ  
いような話です。でも、本当のことなのです。

あなたの手を取った、あなたを形づくり、あなた

# 二〇二一年夏季伝道に遣わされて

東京神学大学学部四年生  
ヤング 肇 子

早いもので、この夏、夏期伝道で京都に遣わされて4カ月が過ぎました。

沢山の神学的学びや課題が見えてきた貴重な日々でしたが、最後に心の中に残ったのは自分の周りにいる人々の支えと愛情を感じたことでした。

教会に着いてから、牧師先生が膀胱がんの再発で四日後に入院手術されることを知らされ、手術までの三日間を使って次の主日礼拝の説教に関しての聖書研究・聖書指導をして下さいました。手術後三日で帰ってくるけど、今度の主日礼拝は、私はいないので信徒さんたちと一緒にお任せします」と言われ、親が出かけてしまったホームアローンの気分でした。

説教指導は遣わされる前から電話でのアドバイスでやり直し三回、京都に着いてからも解体三回と大変な日々でしたが、なぜか落ち込んだり意欲がなくなったりすることはありませんでした。

祝福を四回礼拝でするように言われた時はびびりました。もちろん経験もなく、神学生がしてよいものかどうか、まずは松谷牧師にお伺いし、学校の小泉先生と長山先生にもご意見を伺い、やっと覚悟を決めてやらせて頂きました。

夏期伝で悟ったことは、夏期伝は課題を持ち帰らせる、又は自分の課題に気づかせるためのものであったということ。そして、神学生一人一人を適材適所へ遣わされた神さまのご計画が如何に素晴らしいものであるかを悟り感謝しました。冒頭に申し上げた「自分の周りにいる

人々の支えと愛情」を感じたことは、大きな、そして基本的な気づきでした。

所属教会の麻布南部坂教会松谷牧師の励ましやアドバイス、そして教会員の方々の祈り、このコロナ過の状況でありながら、また、健康状態の悪い中、東京神学大学から神学生を受け入れ育てようとしてくださった受け入れ先の向日町教会牧師と教会員の方々、また、私たち神学生に対して、学校の先生方ももちろんのこと職員の方々の思いやりで私たちは守られ育てられていることに改めて気づかされました。

夏期伝へ行く前の教職員の方々の準備や気遣いは、私たち神学生の強い支えとなりました。何かにつけ不平を言う私たちを親の立場に立って支え守ろうとしてくださる周りの人々のことを思い起こし、そしてもっと辿って行けばそれらすべてを私たちに与えて下さっている親である神さまの恵みと支えに感謝せずにはいられなかった夏期伝道の日々でした。

来年ももう一度夏期伝の機会を与えて頂きたいなと思っています。

## 報 告

\*十一月七日(日)は聖徒の日の礼拝を捧げ、礼拝後、昨年度天に召された末永尚子姉、鳥畑壽子姉を偲ぶ時を持ちました。

\*十一月二十一日(日)は収穫感謝日・謝恩日の礼拝を捧げ、席上献金は謝恩日献金として教団年金局に送りました。

\*今年もアドベントからクリスマスまでの礼拝について案内するポスター・はがき(宗戸健太兄デザイン)を作成しました。

\*十二月十九日(日)は九時から教会学校のクリスマス礼拝と祝会、十時半から降誕祭礼拝を行いました。降誕祭礼拝後の祝会は中止しました。また、十二月二十四日(金)夜の聖夜礼拝は沢山の方々

参加されました。

\*南部坂幼稚園は十二月十六日(木)〜十七日(金)のクリスマス礼拝をもって二期が終了し、冬休みに入りました。

## 各部報告

### 成人会

日時 十一月二十一日 主日礼拝後  
場所 教会堂会議室  
出席者 三名  
内容 士師記 十三章〜十六章  
不妊の女から生まれた男の子、サムソンには胎内にいる時から神から怪力が与えられた。イスラエルがペリシテ人に支配された四十年間のうち二十年間を士師として戦った。

二番目に愛したデリラという女はサムソンの怪力の源をつきとめないと大金を渡さないと領主たちに脅され、サムソンに「髪の毛を切らないこと」を自白させた。神の怪力は消え、牢屋に入れられ両眼をえぐられ、見世物にされた。サムソンは神に「私の命と引き換えにもう一度だけ力を与えてください」と祈って建物の中の柱を倒し、数えきれないほどのペリシテ人を一緒に殺した。

次回 士師記十七章〜十八章  
司会 菊池才知子姉

日時 十二月十九日 降誕祭礼拝後  
場所 教会堂会議室  
出席者 五名  
開会祈祷 菊池才知子姉  
内容 士師記 十七章〜十八章  
☆ミカは律法を無視して息子の彫像を神殿に収め、息子の一人を自分の祭司にして

### 婦人会

いた。その頃のイスラエルには王がなく、各人が自分流に信仰を表していた。ダンの部族は嗣業の地がなく、住み着く土地を探査するために勇士十五人を派遣した。ダンの氏族六百人が武装して故郷を出発し、ライシユに向かい、温順な人々を殺し、町を焼き払った。ダン族は町を再建して住み着いた。彼らは拝礼するため例の彫像を建て、モーセの孫ヨナタンとその子孫が捕囚の日まで祭司を務めた。

日時 十一月二十八日 主日礼拝後  
場所 教会堂会議室  
出席者 七名  
開会祈祷 菊池才知子姉

◇聖書研究 サムエル記下十九・九b〜二十一章二十二節  
アブサロムの死を悼むダビデ王の悲嘆に家臣兵士達は当惑した。ヨアブは王を非難し、諫めた。王と兵士たちがヨルダン川を渡り、ギルガルに進んだところで、その場にいたベニヤミン人シエバが角笛を吹き、反ダビデを扇動した。ヨアブはシエバを討った。(二十一・一〜二十二)

ダビデの治世に飢饉が三年続いた。主の神託により、ダビデはサウル直系の子孫七人をギブオン人に渡した。王はサウル、ヨナタンの遺骨をサウルの父キシユの墓に葬った。ペリシテ人との闘争は何度もあり、ガトのラファの子孫である四人の巨人・怪人がダビデと家臣によって倒された。

次回 一月二十三日「サムエル記下」  
二十二章〜二十四章  
二、その他 クリスマスカードのメッセージ記入の分担。にじのいえ信愛荘へクリスマス献金(五千円)